

令和6年度 第2回学校運営協議会

日時：令和6年9月18日（水）  
10:00～11:30

出席者 A委員：学識経験者	B委員：公民館代表
C委員：福祉施設代表	D委員：福祉施設代表
E委員：企業関係者	F委員：医療関係者
G委員：現PTA代表	H委員：本校校長

オブザーバー参加：副校長2名、総括教務主任、中学部代表、高等部代表、寄宿舍代表 計14名

- |                    |
|--------------------|
| 1 開会               |
| 2 校長挨拶             |
| 3 日程説明（菅原副校長）      |
| 4 熟議               |
| (1) 熟議テーマの提案（石川校長） |
| (2) 教職員アンケート結果について |
| (3) グループディスカッション   |
| 5 諸連絡              |
| 今後の雲煙委員会の日程について    |
| 6 閉会               |

## 1 開会

## 2 校長挨拶（要約）

本日はありがとうございます。夏休み後より、教育実習や高等部の Try スポーツなど様々な教育活動が展開されております。6月27～28日には全国特別支援学校長会にて、本校の復興防災教育の発表を行いました。現在、学校の転換期に来ております。本日は委員の皆さま方と本校職員とで本校の未来につながる可能性をグループディスカッションしていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## 3 日程説明

## 4 熟議

### (1) 熟議のテーマ（別紙資料により説明）

「気仙光陵支援学校の可能性を見つけたい！～児童生徒の未来につなげたい！～」

### (2) グループディスカッションのおもな内容

## グループ① (B 委員・D 委員・E 委員・中学部代表・寄宿舍代表)

### 学校

- ・働き方改革、業務精選、見直しの機会
- ・生徒数減少のメリット・デメリット

### 地域と学校

- ・今学校でやっていることを生かす
- ・継続的活動
- ・立地を生かす（地域に近い。冬でも降雪少ない等）
- ・もっと気軽な交流

### 卒業後

- ・受け入れ側の求める点
- ・就労の持続を維持するポイント

### 学校運営委員会の在り方

- ・普通校のメンバーの参加

## まとめ

まず新たなことを行う際は、教職員の負担とならないよう業務精選が必要である。業務精選は現状を見直す良い機会となる。今学校でおこなっている学習や活動を生かし、地域で継続的に活動するのがいい。具体的には、ジャガイモ収穫をこども食堂などに繋げたり、ピーマン収穫を準備段階から指導していただいたりすることが考えられる。また、地域の方を先生として呼び出すなども、気軽な交流に繋がる一歩となる。本校は物理的に地域と近く、冬でも天候に影響されず活動ができる。これらの点を生かして、地域との継続的な活動に繋がりたい。卒業後に就職して持続的する要素は、まずは職場の方に「好かれること」である。あいさつや返事ができ素直であることや、一つのことを毎日安定してできることが大切である。人間関係の占める割合が大きいため、相手にも自分にも寛容な人がよい。この運営協議会に普通校の関係者も参加すると支援学校の良さがわかったり、お互いの困りごとを共有できたりするのではないかとと思われる。

## グループ② (A 委員・C 委員・F 委員・G 委員・小学部代表・高等部代表)

### 校外での活動 地域につながる場

- ・地域の祭り参加
- ・働くことや勉強以外の生きがい
- ・音楽を使った活動

### 防災

- ・地域での避難訓練
- ・福祉避難所として対応と医ケア対応

### 支援学校として

- ・少人数で手厚い対応

- ・ 支援の必要な子の温かい受け皿
- ・ 現在増えているグレーゾーンの子供たちの受け入れについて

#### 学校間交流

- ・ 教員間の授業交流
- ・ 支援学校間の交流

#### 負担軽減

- ・ 先生の負担にならない仕組みづくりが必要

#### まとめ

校外の活動として地域のお祭りに参加することが、地域の方々に生徒や学校を知ってもらう機会となる。また、学校、家庭、職場以外の居場所につながり、そこで働くことや勉強委以外の生きがいを見つけられるのではないかと考える。音楽を使った活動を発表するのもよいと考える。防災に関しては、福祉避難所となっているので、医ケア対応も含めて確認が必要であるとともに、地域での避難訓練をしてみてもよいのではないかと考える。地域の支援学校として、支援の必要な子の温かい受け皿となっている。現在増えているグレーゾーンの子供たちの受け入れについても検討が必要である。教員間交流や支援学校間交流をとおして、教員が特別支援について理解を深めることに役立つと考える。様々意見は出たが、最後は先生の負担にならない仕組みづくりが必要である。

#### 6 諸連絡

次回の日程について

校長：皆様の本校に対するたくさんのご意見に感謝している。本校職員にも皆さまのご意見をぜひ紹介したい。今回の熟議を次回に繋げていきたい。

#### 7 閉会